

『日本図書館情報学会誌』執筆要綱

2016年10月8日改訂

1 投稿の構成

投稿は、本文ファイルと別紙から構成される。本文ファイルは、本文、注・引用文献、図・表からなり、通しのページ番号(算用数字)を付ける。別紙は、以下からなる。

(1) 論文および研究ノートの場合

1 枚目：標題，著者名，著者の所属機関（複数著者の場合は、全員の所属機関），連絡先（Eメールアドレス。筆頭著者のみで可），日本語要旨（400字以内）

2 枚目：英文標題，著者名（ローマ字表記），著者の所属機関名（英文），英文要旨（250語以内）

3 枚目：目次

(2) 上記以外の区分の原稿の場合

1 枚目：標題，著者名，著者の所属機関名（複数著者の場合は、全員の所属機関），連絡先（Eメールアドレス。筆頭著者のみで可）

2 書式

投稿はA4判1ページに横書き，1行22字×43行で作成する。左右の余白を55mm～60mm程度設け，文字サイズは原則10.5ポイントに指定する（MS明朝やMSゴシックなどの等幅フォントを使用する）。

3 章立て

章，節，項などをたてる際は，ポイントシステムをたることが望ましい。

例：第1章 1
第2章 第3節 2.3
第3章 第1節 第2項 3.1.2

4 本文表記

- (1) 句読点はコンマ（,）およびマル（.）を用いる。
- (2) 数字は，引用文の場合のほかは算用数字を用いる。
- (3) 外国人名や外国地名は，よく知られているもののほかは，初出の個所にその原綴またはローマ字表記を丸括弧に入れて付記する。外国人名については欧語で表記してもよいが，その場合，初出の個所には，ファミリーネーム，ファーストネーム，ミドルネームの頭文字の順に明記し，以降はファミリーネームを記す。

例 シェラ（Shera, Jesse H.）によれば，…またシェラは，…

Shera, Jesse H.によれば，…また Shera は，…

- (4) 欧文略記は，定訳がある場合，日本語名を記載してから，フルスベルとともに丸括弧に入れて記す。定訳がない場合は，フルスベルを記してから欧文略記を丸括弧に入れて記してもよい。

例：アメリカ図書館協会（American Library Association: ALA）では，…

The Fine Press Book Association（FPBA）では，…

- (5) 年紀は西暦年を原則とするが，西暦年以外の年紀を使用するときは，西暦年を丸括弧に入れて添える。

例：昭和20年（1945）

5 書名・記事名

- (1) 本文および注（引用文献等）の中の図書および雑誌名は，和漢書の場合は『 』に入れ，欧語の場合は下線を引くかイタリック体にする。
- (2) 雑誌収載の論文記事名，図書中の章・節の表題，諸種編纂物中の文書名などは，和漢書の場合は「 』に入れ，欧語の場合は“ ”に入れて示す。

6 引用

- (1) 文中の引用文は“ ”のなかに入れる。引用文の場合以外は，原則として現代仮名づかいを用いる。
- (2) 引用文が長いときは，行を改め，本文より2字下げで記す。
- (3) 本文中で，他の文献から引用するため，あるいは出典を示すために注を付す場合は，当該個所の末尾の右肩に半かっこに入れた注番号を番号順に記載する。ただし当該個所の末尾に句読点がある場合には，句読点の前の文字の右肩に注番号を記載する。

[例]

図書館ではコレクションの特色を活用した展示を行っている¹⁾。これらの展示の内容の一覧は，年次報告書²⁾に記載されている。

7 注・引用文献

本文の後に【注・引用文献】と記し，一括して，注・引用番号の順に列挙する。

- (1) 引用文献には一連番号を与え，本文中で同一文献を2度以上引用する場合には，既出個所が分かるように記す。

2 日本図書館情報学会誌 Vol. 58, No. 2, June 2012

例 10) 前掲 2), p. 123-125.

- (2) 引用文献等の記載は、以下の例を標準とする。参考文献の特定の箇所を引用、参照する場合は、引用、参照箇所のページを記載する。

[雑誌論文(和)の参照]

- a. 稲垣文彦・筑波匡介「新潟県中越大地震に関する記録の収集と活用：主に利活用の観点から」『情報の科学と技術』vol. 64, no. 9, 2014, p. 369.
なお、次の記載方法も使用することができる。この方法は、図書、論文集中の論文等にも使用することができる。
稲垣文彦・筑波匡介「新潟県中越大地震に関する記録の収集と活用：主に利活用の観点から」『情報の科学と技術』vol. 64, no. 9, 2014, p. 366-370. 引用は p. 369.
- b. 海野敏・影浦峯・戸田慎一「戦後日本における印刷メディア受容量変化の数量的検証」『日本図書館情報学会誌』vol. 58, no. 1, March 2012, p. 1-12.
なお、3名以上の著者の場合は、筆頭著者のみ明記し、第2著者以下を「ほか」として略記してもかまわない。
海野敏ほか「戦後日本における印刷メディア受容量変化の数量的検証」『日本図書館情報学会誌』vol. 58, no. 1, March 2012, p. 1-12.
- c. 川崎良孝「アメリカ図書館協会 1938 年版『倫理綱領』の成立と性格」『京都大学大学院教育学研究科紀要』59号, 2013年3月, p. 25-49.

[雑誌論文(欧)の参照]

- d. Wieling, Martijn; Upton, Clive; and Thompson, Ann. "Analyzing the BBC *Voices* data: Contemporary English dialect areas and their characteristic lexical variants," *Journal of the Medical Library Association*, vol. 100, no. 3, 2012, p. 205-213.
以下も可である。
Wieling, Martijn *et al.* "Analyzing the BBC *Voices* data: Contemporary English dialect areas and their characteristic lexical variants," *Journal of the Medical Library Association*, vol. 100, no. 3, 2012, p. 205-213.

[図書(和・翻訳書)の参照]

- e. 長谷川昭子『専門図書館における現職者教育と個人の能力開発』風間書房, 2013, p. 235-268.
- f. Breivik, Patricia S.; and Gee, E. Gordon『情報を使う力：大学と図書館の改革』[*Information Literacy: Revolution in the Library*] 三浦逸雄・宮部頼子・斎藤泰則訳, 勁草書房, 1995, 258p.

[図書(欧)の参照]

- g. Lowrie, Jean E.; and Nagakura, Mieko. (eds.) *School*

Libraries: International Developments. 2nd ed. Scarecrow Press, 1991, 393p.

- h. Taylor, John R. *The Mental Corpus: How Language is represented in the Mind*. Oxford University Press, 2012, p. 13-15.

[複数著者による論文集や報告書の一部の参照]

- i. 長塚隆「MLAにおけるデジタル情報技術の活用」日本図書館情報学会研究委員会編『図書館・博物館・文書館の連携』(図書館情報学のフロンティア 10) 勉誠出版, 2010, p. 75-91.
- j. Darnton, Robert. "From Printing Shop to Booksellers: How Books began the Journey to Enlightenment Libraries," Crawford, Alice ed. *The Meaning of the Library: A Cultural History*. Princeton University Press, 2015, p. 91-102.
- k. 野添篤毅「3. 診療ガイドライン作成過程における文献検索」『日本におけるEBMのためのデータベース構築及び提供利用に関する調査研究：厚生科学研究費補助金 21世紀型医療開拓推進研究事業平成13年度総括・分担研究報告書』2002, p. 20-24.

[ウェブ資料の参照]

1. 竹内比呂也「発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス」『カレントアウェアネス』no. 285, 2005.9.20. <http://current.ndl.go.jp/ca1566>, (参照 2015-09-17).
- m. Rumianek, Michael. "Archiving and Recovering Database-driven Websites," *D-Lib Magazine*, vol. 19, no. 1/2, 2013. doi:10.1045/january2013-rumianek. <http://www.dlib.org/dlib/january13/rumianek/01rumianek.html>, (accessed 2015-09-17).

8 図・表

一括して、注・引用文献の後にページを改めて、図・表の順に列挙する。本文中の図・表の挿入箇所は赤字で記載し、改行して【 】でくくって記す。図・表は、その下部に第1図、第1表のように標記し標題を添える。なお、他の資料を加工・転載した場合はその旨を明記する。

9 謝辞

研究の補助金、指導、助言等に対する謝辞は本文の最後に記載する。

10 改廃

本執筆要綱の改訂にあたっては、編集委員会において審議し、常任理事会において承認されるものとする。